

刑部学校新聞

令和4年5月25日
八尾市立刑部小学校
文責：灰藤
家庭数

「脱いじめ傍観者教育」プログラム(4年生)を行いました

5月16日(月)に4年生3クラスが同じ時間帯に、「(株)ストップイットジャパン」の中村征先生を講師として、オンライン(Zoom)で、大阪と千葉県を結んで行いました。



「私たちの選択肢」という中学校のあるクラスで起こったSNS上でのいじめについてのVTRを見て、同じようなことが自分の学級で起こったときに、「自分ならどうするか」「どんな方法がとれるか」ということを考えました。

「日頃からの友達関係」や「その場のノリや雰囲気」に流されてしまうこと」というようなことについても、これをきっかけにしっかり考えられるようにしていきたいです。

<授業を振り返って> (ワークシートの感想から)

【1組】

○これからはみかけたら注意しなきゃだめだとおもった。なぜなら見ているだけだと、なにもかいつしないままずっといじめられるかもしれないからです。だからみかけたら注意しなきゃと思います。

○だれかがいじめられたり悪口を言ったりいじめをしたら、人がいやな気になる前に止めたり先生に言ったらいいとわかった。

○もし、いじめをされている人がいたら、たすけてあげたり、少しでもいじめをとめれるように声をかけてあげる。言うじしんがなくても、先生やかぞく、ともだちにどうしたらいいかをきく、もしくは、先生に言う。

【2組】

○光さんみたいに、アルファトークに書けるのはすごいと思う。いじめは、クラス仲間でむしされたり友だちが少なくなっていくかもしれないから「いじめ」はダメだし、いじめをしたらもう会えないかもしれないし、自分にとってもマイナスになることがあるから、いじめは「ダメ」。

○いじめをしていて、かげ口をいったり、いやがらせをしたり、くつをかくしたり、SNSに書きこんだり、そういうのは、よくないから、いじめを止めたり、ちよくせつ先生にいたり、アルファトークって言うもの書きこんだりするのがよいと思います。そういうことをしないといじめがもっとひろまっているんな人が、いじめをしていじめをされている人がどんどんきずついて学校にこなくなったり、ひきこもりをしたりするからいじめはよくない。

○いじめをされている子がいて、アルファトークにわるぐちをかかれています子がいたら、止めないといけないんだなって思いました。それと、いじめられている子がいたら、空気をよくしたり、声をかけたり、先生に言ったりしたら、ちょっとでもいじめがおさまって、いじめられている子のみかたになったりする子がでてくるかもしれないから、できるだけ声をかけたり、いじめを止めれる言葉を言ったりすれば、いじめが止まるかくりつがあがるんだなって思ったから、これからはしようと思いました。

【3組】

○いじめはものすごくダメだなと、ふたたび分かった。いじめられているのを自分が見たら、誰かに言えばいいことがわかった。

○はじめて学んだことはいじめを見ている人が何か止めれる事をすればいじめを止める事ができるんだなと思いました。でも見ている人が何もしないで見ているだけだったらよけいじめがひどくなるだけだからいじめは止めた方がいい。ドラマの感想は教室がみんな えがおだったのでよかったと思いました。

○いじめは人をきずつくことだから、友達がだれかをいじめてたら助けた方がいいんだなと思いました。

<授業の様子は「学校HP」→「行事・活動(令和4年)」→「5月」をご覧ください>

外部の方を講師としての授業は例年4年生で行っていますが、どの学年でもいじめについて考える授業を行います。「教える」のではなく「一緒に考える」ことを基本にしています。「いじめはダメだ」ということを子どもたちは分かっています。でも、自分でも気が付かないうちにいじめる側になってしまうこともあります。特に「ただ見ているだけ」(傍観者)にはならないで、『止めようとする力』、『相談する力』、『自分たちでも解決する力』を付けていきたいです。

<49期生 考案の50周年記念「横断幕」が完成>

この春卒業した49期生がデザインを考えてくれた「50周年記念横断幕」が完成しました。近日中に場所を選んで張り出す予定です。

卒業前の12月ごろから休み時間や放課後に集まって、一生懸命考えてくれました。卒業生(特に実行委員の5名)の皆さん、本当にありがとうございます。楽しみにしててください。

